赤いろうそくと人魚

小川未明

人魚は南の方の海にばかりすんでいるのではありません。北の海にもすんでいたのであります。

北方の海の色は、青うございました。あるとき、岩の上に、女の人魚があがって、あたりの景色をながめながら休んでいました。

雲間からもれた月の光がさびしく、波の上を照らしていました。どちらを見てもかぎりない、ものすごい波が、うねうねと動いているのであります。

なんという、さびしい景色だろうと、人魚は思いました。自分たちは、人間とあまりすがたは変わっていない。魚や、また底深い海の中にすんでいる、気のあらい、いろいろなけものなどとくらべたら、どれほど人間のほうに、心もすがたもにているかしれない。それだのに、自分たちは、やはり魚や、けものなどといっしょに、冷たい、暗い、気のめいりそうな海の中にくらさなければならないというのは、どうしたことだろうと思いました。